

平成二十七年 支部講演会

中国の街で見る漢字

……日中漢字の意味の違いを考える……

連盟副会長 村上史麗

▼日時 平成二十八年三月六日(日)

▼会場 一宮スポーツ文化センター

▼講師 愛知大学地域政策学部教授 荒川清秀先生

支部集會に引き続き、支部講演会を開催いたしました。

今年講師に愛知大学地域政策学部教授、文学博士の荒川清秀先生をお迎えして、「中国の街で見る漢字」―日中漢字の意味の違いを

考える―と題し、一時間半の講演をお願いしました。中国の文字改革によって

簡略化された字体を簡化字あるいは簡体字といいますが、先生自ら街角で撮影された看板や表示板の漢字簡体字を題材にプロジェクターの

演題 中国の街で見る漢字
―日中漢字の意味の違いを考える―
講師 荒川清秀先生



映像を駆使され、中国語が理解出来ない私達に分かりやすく解説していただきました。

文化の違いにより、日本の漢字から想像する意味と全く反対の意味の漢字もあり大変驚きました。例えば、もし街中で「寿衣」と店の

看板に書いてあれば、日本人は「ウエディングドレスかな?」と想像しますが、「寿」の文字が長生き・長寿を表わす漢字ですので、正解は「死衣装」の意味であります。

又、先生は長年NHKラジオ講座や「テレビで中国語」の講師としても活躍されたので、話術も素晴らしい。一時間半の講演でした。このような機会に恵まれ、より中国・中国語が身近に感じることが出来、有意義な時間を過ごしました。

《著書》

『近代日中學術用語の形成と伝播』(白帝社)

『一歩すすんだ中国語文法』(大修館書店)

『中国語を歩く 辞書と街角の考現学』1・2

(東方書店)

その他多数

聴講者 一六〇名

(二 一般聴講者 二十八名)

